

第1回尾張旭市総合計画審議会第1部会  
(保健・医療・福祉、教育・生涯学習) 会議録

- 1 開催日時  
平成25年7月18日(木)  
開会 午後2時  
閉会 午後4時10分
- 2 開催場所  
尾張旭市役所3階 庁議室
- 3 出席者  
後藤 澄江、若杉 致由、細田 智恵子、西塚 浩美、高志 守彦
- 4 欠席者  
なし
- 5 傍聴者数  
0名
- 6 出席した事務局職員  
企画部長 川原 芳久、企画課長 石坂 清二、企画課長補佐 山本 和男、  
企画課主査 久野 善之、企画課主査 中川 暢頭
- 7 議題等  
(1) 基本構想(案)について  
(2) 政策1(保健・医療・福祉)について
- 8 会議の要旨

企画部長	<p>本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、ただ今から、尾張旭市総合計画審議会第1部会(保健・医療・福祉、教育・生涯学習)の第1回目の部会を開催させていただきます。</p> <p>それでは、後藤部会長、よろしく願いいたします。</p>
後藤部会長	<p>本日は、第1回目の部会を召集いたしましたところ、皆様ご多忙の中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議につきましては、お手元に配布しております次第に従って進めさせていただきますので、よろしく願いします。</p>
後藤部会長	<p>まず、7月3日の全体会におきまして、各部会の職務代理者を、第1回の部会で選出することとなっておりますので、職務代理者の選出を行いたいと思います。</p> <p>全体会で、職務代理者は部会長が指名することとなっておりますので、私から指名させていただきます。</p> <p>若杉致由委員に職務代理者をお願いしたいと思います。</p>

	若杉委員よろしく申し上げます。
後藤部会長	それでは、議事に入る前に、部会の審議範囲と今後の進め方について確認をしておきたいと思いますので、事務局から、説明をお願いします。
企画課長	まず部会の審議範囲につきましては、資料9及び前回の全体会で配布いたしました資料5をご覧ください。 (部会の審議範囲説明)
企画課長	次に部会の進め方について、事務局の案をご説明いたします。 部会の進め方につきましては、部会でお決めいただくのが本来の姿ですが、他の部会との整合を図る必要もあることから、せん越ではありますが事務局で考えた案を説明させていただきます。 部会の審議範囲で説明いたしました2つの政策についてご審議いただく前に、前回の全体会でご議論いただきました基本構想(案)について、各部会がそれぞれの担当分野の視点からご意見をいただきたいと考えております。 その後、先ほどご説明いたしました2つの政策について、1政策ごとにご審議いただきたいと考えております。 したがいまして、本日は政策1(保健・医療・福祉)について、事務局から説明を行った後に、ご審議いただきたいと思います。なお、本日の会議は2時間を予定しておりますので、政策1について残った部分がありましたら、次回の審議にしたいと考えております。 それから次回の部会では、政策2(教育・生涯学習)について、同様に審議をお願いしたいと考えております。 なお、部会は3回の開催を予定しており、最終の第3回には、2回の部会で出された意見のまとめを行い、その後の10月4日の第3回全体会において部会としての報告を行っていただければと考えております。
後藤部会長	ありがとうございました。 ただ今事務局から説明いただきましたが、基本構想(案)は全体会で議論するものでありますが、議論できる時間が限られますので、この部会として担当する分野を中心にご意見を伺いたいと考えております。 その後、担当します政策について審議を行いたいと考えております。 この進め方について、何か意見はございますか。 (異議なしの声)
後藤部会長	それでは、これより継続審議となりました基本構想(案)について、当部会の担当する分野の視点から、お気付きのところについてご意見をいただきたいと思いますが、前回配布されました基本構想について、少しだけ事務局から説明をお願いしたいと思います。
企画課長補佐	(基本構想の説明)
企画課長	資料5の13ページから16ページについては、政策の大綱となっており、これから審議を行っていく各政策の総論部分となりますので、個別の施策の検

	<p>討を行った後に検討していただければと思います。</p>
後藤部会長	<p>それでは基本構想（案）について、ご意見とご質問をお願いします。</p>
高志委員	<p>若い世代を中心に、尾張旭市にずっと住み続けたい方がいないような気がします。若い世代の流出という点では、中学生の子を持つ自分の娘が、いい学校に入学させたいという理由で転居して行きました。基本構想を読んでもその具体的な対策が分かりませんでした。</p> <p>もう一つは、認知症や脳の障害などの原因により、要介護認定者が増えており、そういった部分をどうすればいいのかという具体案を検討してはどうかと思います。</p> <p>具体的にどのようにすれば良いかということ、数値で示して欲しいと思います。例えば、要介護認定者が何人いて、その比率は何パーセントであるといった事を出した方が良いと思います。</p> <p>市が策定する計画なので、仕方がない面はあるかと思いますが、どうしても全ての分野を網羅した計画になってしまい、目玉が何か分かりません。これらの取り組みを進めるためには、市だけが実施していくのではなく、大学や企業、商店などを巻き込んで、まち全体で取り組む必要があるのではないかと思います。</p> <p>将来の都市像が少し長いように感じます。会社でいう所の一番大切な理念・ミッションに当たるので、健康都市のように、短くした方がいいのではないのでしょうか。健康都市には様々な内容が含まれるので、都市像を健康都市にして、サブタイトルとしてその他の事項を付けてもいいのではないのでしょうか。</p>
西塚委員	<p>健康都市が浸透してきていることから、健康都市を大きく取り上げた方がいいように感じます。お年寄りも子供も元気なまちというのが、住みよいまちであると思います。</p> <p>そういう意味では、お年寄りが安心して暮らすことのできるまちが良いと思います。具体的には、買い物難民という言葉が出てきていますが、本市は自然に恵まれた良いまちですが、車がないと生活しにくいまちでもあります。</p> <p>市営バスが走っていますが、市内をくまなく回って走っているの、目的地まで時間がかかり、あまり利用されていないのではないかと感じることがあります。</p> <p>75歳以上の方の住みよさが低くなっている事を考えると、自分達もやがて歳をとっていくので、お年寄りも子供も一緒に何かをやる環境を整えることで、住みやすいまちになるのではないかと思います。</p>
後藤部会長	<p>2025年ぐらいを迎えると、団塊の世代が75歳以上になっていくことから、本格的な高齢社会に突入していきます。65歳以上が高齢者と言われていますが、この世代の方はお元気な方が多く、75歳から80歳ぐらいになると、本当の意味での高齢社会を迎えることになるかと考えられています。</p>

	<p>高齢化を迎えた時に、安全安心なまちになっているかどうかが求められており、まだ10年間ぐらいは猶予があるとは思いますが。</p> <p>これまでは、高齢者の割合が少なかったことから、行政が全てをまか纳っていました、高齢者の割合が高まっていくこれからは、ハード面の発展だけではなく、人々の思いやりが大切になってくると思います。そういったまちを、これから10年で作っていくことが求められているように思います。</p>
高志委員	<p>30年ほど前に本市へ引越してきた時には、藤が丘や愛知医科大学までバスが通っていましたが、バス路線が廃止され、今は不便になっていると感じます。</p> <p>また、私は乗った事はありませんが、市営バスが各公共施設をうまく巡回していないと思います。愛知医科大学病院にも行っていないようですし、市の施設である渋川福祉センターにもバス停が無いと聞いたことがあります。</p>
若杉委員	<p>個々の議論は、各施策の検討の中で進めていくということで、本日は、基本構想について議論を進めましょう。</p> <p>この前の全体会でも話題に出ましたが、将来の都市像が長いという点については私も同じように感じます。</p> <p>ただ、色々考えていくと、高齢化社会を迎えるにあたっては支えあうことが必要となります、健康という概念も元気あふれるに含まれます、緑も含まれていますということで、十分に議論されて原案が作成されたという感想を持ちました。</p> <p>ただ、都市像の最後に「尾張旭」を入れた理由をもう一度確認したいと思います。</p>
企画課長	<p>尾張旭市は、これまで市民の方も知らない魅力があったり、知らない行事があったり、ましてや市外の人には知られていない地味なまちというイメージがありましたし、積極的なPRを行ってこなかったという事があります。</p> <p>これからは、もっと市内外の方に魅力を発信していこうという思いを込めて、あえて「尾張旭」を付けることにしました。</p> <p>前回の会議で使用しました資料8に、「このまちの魅力を高め、尾張旭市を他市に負けないような住みよいまちに、今まで以上に“尾張旭市”を市内外に発信していこうという思いを込め、市の名称を将来の都市像に加え、ます。」という思いが書いてあります。</p> <p>なお、県内自治体の状況を見ても、38市中17市が、将来の都市像に市の名称を入れています。</p>
若杉委員	<p>都市像に「尾張旭」という市の名称が入れてないと、どこのまちでも使える都市像になってしまうので、良いことだと思います。</p>
若杉委員	<p>また、尾張旭市は市の中心部を名鉄瀬戸線が走っており、先ほどから話の出ている市営バスも、家から500mの範囲にはバス停があるように運行している交通の便がたいへん良いまちです。</p>

企画課長	<p>参考としてお伝えしますと、市営バスは、市外になりますが利便性を考えて愛知医科大学病院にも運行しており、渋川福祉センターも近くに停留所を設置しています。</p>
若杉委員	<p>市営バスは、確かに目的地まで時間はかかりますが、病院やショッピングセンターにも行くようになっており、お年寄りの方に喜ばれていると聞いたことがあります。</p>
細田委員	<p>尾張旭市をどのようにアピールしていったらよいか気がになり、やっぱり健康都市なのかなとは思っていました。健康都市宣言して間もなく10年を迎えるところですが、この先10年の総合計画を策定するにあたっては、健康都市をより一層アピールしてはどうかと思います。</p> <p>話題に挙がっている市営バスに関して言うと、1時間半に1本の運行では少ないと感じました。</p>
高志委員	<p>民間企業においても大きな理念は変わりません。トップの交代で追加することはありますが、理念そのものは変わりません。10年間の計画で都市像を変えてしまうことには疑問があります。</p>
若杉委員	<p>将来の都市像は、丸印の中の解説を読むとその意味が良く分かりますが、題名だけでは分かりにくいのかなと思います。</p>
後藤部会長	<p>第四次総合計画の都市像を検討した時は、〇〇都市という言葉が、全国の他市と重なるのではないかという意見が出されました。反対に、今回将来の都市像を変えることによって、キーワードが分散してしまうという意見が出されています。</p> <p>どちらかに決めていくことは難しいのかとは思いますが、今回は新しい都市像を作られたということでチャレンジしているということが良く分かります。</p>
企画課長	<p>市内部の会議におきましても、公園都市と健康都市というフレーズを残すことについて、議論を行った経緯があります。</p> <p>今回、将来の都市像を作成するにあたっては、ゼロから若手のワーキンググループでたたき台を作って議論を進めてきました。</p> <p>緑あふれるに公園都市の理念が、元気あふれるに健康都市の理念が含まれており、市長が変わったことも転機となって、これまでの〇〇都市では無く、大きく変えることとなりました。</p> <p>少子高齢化の進展など大きな環境変化がある中で、今までどおりでは無い行政運営を行うためには、将来の都市像も変えていこうという気持ちで作ったものとなります。</p>
後藤部会長	<p>第四次総合計画の都市像を検討した際にも、公園都市か健康都市かで議論があったように思います。今回の都市像には、公園都市も健康都市も含まれており、最終的には「住みよいまち 尾張旭」が集約した結果のように感じます。</p>
若杉委員	<p>計画人口と土地利用構想は計画の基本になる部分だと思います。今回の総合計画では人口が右肩上がりではなくなってきました。</p>

	<p>人口推計の結果では、計画人口として掲げている84,000人には届かない中で、推計を若干上回る人口増加に見合った公共投資を進めていかなければならないと思います。</p> <p>この計画人口を受け入れるために、農地であった場所を住宅地に変えていくとか、マンションを誘致するといったような、土地利用に関する政策を進めていく必要があると思いますが、どのように考えているのかお尋ねします。</p>
企画課長	<p>本市の人口は、そのまま対策を打たないと減少に転じてしまいますので、住みよいまちをめざして、人口を増やしていきたいと考えております。</p> <p>ただし、本市は高層マンションが安易に建たないように高度制限を設けていますが、規制を廃止してまで人口を増やす必要性は感じておりません。</p> <p>また、これまでの土地区画整理事業は郊外部から実施してきましたが、ここ最近では印場、旭前・城前、北原山地区といった瀬戸線沿線で基盤整備を進めているところです。</p> <p>農地を住宅地に変えるというところまで踏み込むことなく、今の基盤整備を進めていくことで、計画人口の84,000人をめざして、人口増加を図っていきたいと考えています。</p>
若杉委員	<p>具体的な事業として、こういう場所に人口を貼り付けようというような整備の計画は考えていないということでしょうか。</p>
企画課長	<p>ハード面の整備では無く、子育て支援などのまちの魅力を高めていくことで、人口の増加を図りたいと考えております。</p>
若杉委員	<p>ハード面の整備は、私も無理であると考えています。例えば、最近土地区画整理事業を実施した地区でも、人の異動は市内での転居に留まり、新しい家が建築されても人口が増えてはいないように思います。</p> <p>これからは、土地区画整理事業を進めていくよりも、若い世代の人達が住みつけるような魅力ある政策が必要です。そういった施策が、総合計画の中に盛り込まれていますか。</p>
企画課長	<p>例えば、子育て支援の施策については、市としての重点施策として位置付けており、高い目標を掲げて事業を進めていかなければならないと考えております。</p> <p>そのことは、12ページの計画人口の項目において、「主に子育て世代の流入を図り、社会増減を増加に転じさせることなどで、定住者の増加を図ります」として記載しております。</p>
後藤部会長	<p>計画人口の中に、人口の質として高齢者の割合や年少人口の割合も明示していく予定ですか。明示することによって、どの部分にどういった政策を実施していくのかが分かるような気がします。</p>
企画課主査	<p>人口推計の結果では高齢化率を記載していますが、計画人口そのものに高齢者や年少人口の割合をお示しする予定はありません。</p>
若杉委員	<p>現在人口の5分の1を占めている高齢者が、4分の1、3分の1といったよ</p>

	うに増えていきます。計画人口の84,000人のうち、高齢者の割合がどのように推移していくのかが押さえておく必要があると思います。
若杉委員	土地利用構想と都市計画マスタープランとの整合性はどのように考えていますか。
企画課主査	土地利用については、基本構想の中では12ページの土地利用構想部分で記載しておりますが、25・26ページに土地利用構想図を掲載しており、この構想図の一部で都市計画マスタープランと差異がある部分がございます。 その差異の考え方としましては、総合計画で示す土地利用構想は、時の首長や行政、市民の皆さまの思いなどが含まれているものであり、都市計画マスタープランは現況や法律・規制に基づいて、それぞれの区分を色分けしたものと考えており、両計画に差異があることも仕方がないと考えております。
若杉委員	都市計画マスタープランの計画期間はいつまででしょうか。
企画課主査	平成23年度から平成37年度までの計画となっています。
若杉委員	同じ市として政策を進めていく以上、両計画の整合を取っていかないといけないと思います。
企画課長	市内部の会議におきましても、都市計画マスタープランと同じ土地利用構想図を掲載すべきであるという意見も出されておりましたが、総合計画に必ず土地利用構想を乗せなければならないというものではないことから、総合計画に土地利用構想図を掲載しない事も考えられる訳です。 そのような中で、なぜ総合計画に掲載するのかを考えると、都市計画マスタープランは法律の縛りなどを受ける現実的なプランであり、総合計画は若干夢のある部分や可能性を残すという点で違いがあるのではないかと考えています。
後藤部会長	議論が尽きないかとは思いますが、基本構想については他の部会でも意見をいただいておりますので、本部会での審議は一旦閉じさせていただきたいと思っております。
	午後2時55分休憩 午後3時再開
後藤部会長	2つ目の議題は、政策1（保健・医療・福祉）についてのご意見をいただきたいと思います。それでは、まず、事務局から資料の説明をお願いします。
企画課長補佐	（資料5のうち政策1の説明） （資料10の説明）
後藤部会長	ただ今、お聞きいただきましたように、政策1（保健・医療・福祉）は、施策が1-1から1-6までに分かれております。そこで審議は、施策ごとに一つ一つ行っていくことにします。 それでは、施策1-1「健康づくりの推進」について、ご意見がありましたら発言をお願いします。
若杉委員	本市が実施している脳の健康チェックリスト（あたまの元気まる）の取り組み

	<p>みは、非常に良い取り組みだと思います。他市で実施していないような新たな取り組みを、総合計画に取り入れていくという姿勢があってもいいのではないのでしょうか。</p> <p>また、成果指標の2点目の「健康寿命」の考え方が、最近報道された愛知県などの数値と整合していないように思います。数値の出し方は色々あるかと思いますが、どのように考えたらよいのでしょうか。</p>
企画課長補佐	<p>健康寿命は、第四次総合計画から使用している指標であり、保健所が指定した算定式で算出しておりますが、実際のところ、国や県の健康寿命とは算定方法が異なっています。</p> <p>ただし、本市独自で算定するだけの数値が無い旨を担当課から聞いているところでもあります。国や県と比較できる指標でないと違和感を感じられる方もお見えになるかと思しますので、算定式を変更することが出来ないかどうか、担当課で検討しているところです。</p>
高志委員	<p>あたまの元気まるを導入することは良いと思いますが、結果が悪かった場合に、その後どのようにしていくかが計画書の記載の中で見えてきません。例えば、スタッフの養成を行っていくなどの対策を考えるなど、やったらやりっぱなしになってはいけないと思います。</p> <p>また、認知症の傾向があると言われた本人もすぐには納得できないかと思しますので、ちゃんと説得していく仕組みが必要ではないかと思えます。</p> <p>また、健康寿命について、何歳以上の方の何パーセントが要介護認定を受けているか、他市と比較してどのような状況か、要介護になっている要因は何かなどを調べなければ、健康寿命だけを調べていても意味が無いように思います。</p>
企画課長	<p>37ページの施策1-4（高齢者福祉の推進）において、自立高齢者の割合という成果指標を設けており、要支援や要介護になっていない65歳以上の方を数値で追っており、その内容についても分析しています。</p>
企画課長補佐	<p>頭の元気まるについてですが、認知症の疑いがあると判定された場合は、保健師が生活習慣などをチェックして改善などのアドバイスや必要に応じて健康づくりに関する教室などの紹介、3～6ヶ月後に再度チェックを受けていただき、必要に応じて医療機関を紹介するなどの対応を行っております。</p>
若杉委員	<p>生活習慣などについて、こういう点に気をつけましょうと言った部分をPRしていくなど、チェックを受ける前段階で注意喚起をしていくことが重要であるように感じます。</p>
企画部長	<p>認知証サポーター養成講座を全職員が受講する予定です。その中で、認知症にならないために工夫していくことなどについても話をお聞きしています。</p>
後藤部会長	<p>世界健康都市連合の設立メンバーであることが、市民の皆さんに浸透していますか。</p>
企画課主査	<p>平成24年度に実施したまちづくりアンケートでは、「健康都市をめざして</p>



	<p>いることを知っている」方が56.8%、「健康都市という言葉を見聞きしたことがある」方が20.3%であり、約8割の方に認知されています。</p>
後藤部会長	<p>それでは、施策1-2「地域医療・福祉医療の推進」についてですが、この施策は先ほどの健康づくりの施策と密接に関わってくる分野であり、健康づくりの取り組みが適切に推進されると医療費の抑制につながり、適切に実施されないと医療費の増大につながってしまうという分野になります。ご意見がありましたら発言をお願いします。</p>
若杉委員	<p>施策の成果指標の「地域の医療機関を安心して利用している市民の割合」は、93.9%と非常に高い割合ですが、その分医療費も高くなっているのではないのでしょうか。安心して医療機関を利用していただき、医療費も低くなっている事が理想ですが、医療費が高い状況であれば、そのギャップを埋める手立てを考える必要があるように思います。</p>
企画課長	<p>基本事業の成果指標として、「各種福祉医療の年間助成件数」や「国民健康保険被保険者の一人当たりの年間医療費」を掲げており、数値を注視しています。</p> <p>また、本市は医療機関に恵まれており、医療にかかりやすい環境が整っています。そのことから、尾張旭市は医療費が高くなっていることが現状としてあります。</p> <p>これらの指標は、目標を高く設定すれば良いのか、低く設定すれば良いのか判断が難しい指標となります。</p>
細田委員	<p>中学3年生までの福祉医療費助成制度が開始されました。そのことも医療費が高くなる要因になっているのではないかと思います。</p> <p>その年代の子供を持つ保護者にとっては大変助かる制度であり、良いことであると思いますが、気軽に病院に行こうかとなってしまう、本当に医療が必要な方が適切な医療を受けられない状況になっているのではないかという点を危惧します。</p>
企画課長	<p>愛知県は、裕福な自治体が多く、福祉医療費のサービス合戦のような状況になっていることも否めません。本市の近隣自治体はほとんどが中学3年生まで福祉医療費の助成を行っており、一部の自治体では、高校生まで助成の対象とするようです。</p> <p>本市が、サービス合戦にどこまでついていくべきなのかは、判断が難しいところと考えております。</p>
後藤部会長	<p>愛知県でも福祉医療費制度の見直しが検討されているようであり、市の判断だけでは難しい部分もあろうかと思います。</p>
企画部長	<p>周辺自治体が制度の導入や引き上げを行った際に、尾張旭市だけが導入しない、引き上げないということは難しく、都市間競争という点でも対応が難しい状況です。</p>
若杉委員	<p>基本事業1-2-2の「救急医療体制の充実」の当直医制度について、時間</p>

	<p>の制約などから、瀬戸旭医師会だけで事業を継続することに無理が出てくるのではないのでしょうか。この制度を維持していくことについて、具体的な記載を検討してはどうでしょうか。</p>
企画課長	<p>当直医制度について、医師会からはどこかに診療所を設置して欲しいという旨のご要望をいただいています。ただし、まだ具体的な内容が固まってはいない状況となっています。</p>
若杉委員	<p>全国に先駆けて、当直医制度をこの地域で導入してきた経緯があります。また、尾張東部地区は医療環境に恵まれ過ぎているとも言えます。医師の数も極めて多い状況であり、これらの環境をどのように活かして健康づくりを進めていくのが大切ではないのでしょうか。</p> <p>高齢化が進み、医療費が抑制されることは良いと思いますが、単に問題の先送りになってはいけないと思います。ぴんぴんころりでは無いですが、健康増進の取り組みを進めていくことが重要であるように感じます。</p>
後藤部会長	<p>必要な時には必要な医療を受けていただき、健康増進の取り組みによって不必要な医療費は縮減していくことが必要になってくると思います。</p>
若杉委員	<p>医療費を縮減していく事を記載してはどうでしょうか。</p>
企画課長	<p>本施策の中では、基本事業の1-2-3において「かかりつけ医制度の普及」が重要である事を記載しており、医療費の削減にもつながっていくものではないかと考えております。</p>
若杉委員	<p>医療と健康づくりの関連性が読みとれないように感じます。他の施策との連携があることを記載してはどうでしょうか。</p>
企画課長	<p>施策体系の関係としては、基本的には、関連性の大きいものが同じ政策の中に含まれているという整理を行っています。</p>
企画部長	<p>まちづくりの考え方において、分野横断的な取り組みを進めるということ掲げていることから、施策を取り巻く環境と課題の中で、健康づくりと医療、高齢者福祉などとの関連性を記載してはどうかと考えております。</p>
若杉委員	<p>少しでも構わないので、他の施策との関連性について記載した方が良いと思います。</p>
後藤部会長	<p>例えば、子育てや高齢者福祉、障がい者福祉などとの連携について記載してはどうでしょうか。</p>
後藤部会長	<p>それでは、施策1-3「子育て支援の推進」について、ご意見がありましたら発言をお願いします。</p>
企画課長補佐	<p>施策の成果指標の「子育てしやすいと思う保護者の割合」は、無回答者を除くと、平成24年度現状値が89.6%になりますので、記載の訂正をお願いいたします。</p>
後藤部会長	<p>現在、子育て支援が都市間競争の指標になっているかと思います。他市とはアンケートの取り方が異なるので、比較することは難しいかとは思いますが、比べられた事はあるのでしょうか。</p>

企画課主査	本指標について、他市との比較は行ってはおりません。
高志委員	アンケート以外の方法で子育てのしやすさを図ることは出来ないのでしょうか。
西塚委員	子育てしやすいかどうかは、数字には表れないものではないかと思います。保護者の方の感じ方によって異なってくるかとは思いますが、アンケート以外の方法で聞くことは難しいと思います。
後藤部会長	尾張旭市において、待機児童は問題にはなっていないのでしょうか。
企画部長	年度当初には、待機児童数は一旦0になりますが、定員に余裕がある訳ではないので、年度途中や年度が変わったりすると待機児童が発生することはあります。 また、兄弟同じ園に入園したいといった要望や希望する園への入園などには応えられていない状況になります。
若杉委員	人口を伸ばしていくからには、子育て支援は手を抜くことができない施策であると思います。
企画課長	子育て支援は最重要施策であると考えておまして、35ページの下段においても、「まちの活性化により定住人口の増加を図るため、細やかな事業展開に対する市民の要望に応え、積極的に取り組み、成果の向上をめざします。」と記載しております。
後藤部会長	尾張旭市にお住まいの女性が就業を継続しながら、子育てができる環境があるのでしょうか。もし、乳幼児などがいる世帯の方にとって、環境が整っていないと他市に流出してしまうことになるのではないのでしょうか。 この分野は大切な点ですので、アンケート結果などの分析が必要ではないかと思います。
後藤部会長	それでは、施策1-4「高齢者福祉の推進」について、ご意見がありましたら発言をお願いします。
西塚委員	生きがいを感じるということは非常に大切なことであると思います。具体的に高齢者の方がどのようなことで生きがいを感じているかが分かるデータはあるのでしょうか。
企画課長	生きがいについて尋ねた設問に追い設問があり、その中で趣味や娯楽、家族との団らん、旅行などについて回答していただいております。
企画課主査	クロス集計結果が手元にございませので、年齢ごとの詳細については分かりかねますが、自由記述欄の記載からは、家族とのコミュニケーションや団らん、趣味の活動について回答している割合が高くなっております。
西塚委員	65歳以上の方でもお元気な方が多い状況ですので、働きたいと思っている方も多いのではないのでしょうか。例えば、シルバー人材センターなどを活用して雇用を創出することで、生きがいづくりにもなり、ひいては健康増進にも結び付いて行くのではないのでしょうか。
若杉委員	高齢化が進展している状況の中では、生きがいづくりを進めていくことが重

	<p>要になってきます。いかにして高齢者の要望を満たしていくかが極めて重要になってくると思います。これからは、趣味の活動ばかりを進めるのではなく、生産活動に携わっていただく方を増やしていくことが必要なのではないかと思います。</p>
後藤部会長	<p>山間部であつたりすると、高齢者が作った野菜を販売することで、生きがいを見出しているような事例もあります。</p>
企画課長補佐	<p>現状と課題の4点目に記載してあります高齢者生きがいセンターを開設する予定となっています。この生きがいセンターでは、生きがい対策を進めていきたいと考えており、今どのような事業を進めて行くのかを検討していくところです。</p>
若杉委員	<p>高齢者の中には、企業などで活躍された有能な方が多くお見えになります。元気な高齢者に働く場所や活動のできる場所を提供していくことが必要であると感じております。</p>
高志委員	<p>組織化することや自分が卒業した企業にも協力を求めていくことなどが考えられるのではないのでしょうか。</p>
若杉委員	<p>環境美化活動や地域福祉活動などで、こういった方々にいかに活動していただくかがますます重要になってくると感じています。</p> <p>そういう意味では、高齢者福祉の推進という中に全て含んでしまうことには若干疑問を感じます。</p>
企画課長	<p>高齢者の方の生きがいづくりについては、50ページの施策2-4「生涯学習の振興」において、高齢世代で生涯学習に取り組んでいる市民の割合を、成果指標として記載しています。</p> <p>また、他の施策を進めていく中で、超高齢社会を迎える中では、高齢者の方を意識しながら事業を進めていかなければいけないという考えを持って、関係施策に高齢者関係の指標が掲載されております。</p>
企画部長	<p>少子高齢化の進展の中では、高齢者の方にも元気なうちは支えあっていただく側として加わっていただく仕組みが必要であると考えております。具体的には、スクールガードの取り組みなどで、多くの高齢者の方にご協力いただいている状況があります。</p>
後藤部会長	<p>団塊の世代の方が高齢化していく中で、新しい価値観を持った高齢者の方が増えてきております。こういった方々に活躍していただけるような受け皿となる場を地域に作るが必要になってくるのではないのでしょうか。</p> <p>そのことが、健康づくりや医療費や福祉サービスの適正化にもつながっていくのではないのでしょうか。</p>
若杉委員	<p>高齢者の方のボランティア参加率が徐々に高まっていますが、まだ浸透していないところが実情と思います。</p>
高志委員	<p>中心になって動いていただくボランティアリーダーの養成が必要と考えています。行政が必要に応じて費用を出すことも考えた方がいいのではないでし</p>

	ようか。
企画課長	ボランティアへの参加という点では、基本事業1-4-3「高齢者福祉の担い手育成」において、高齢者福祉ボランティア団体等の参加人数を成果指標として捉えています。
後藤部会長	そろそろ時間も経過してまいりましたので、この件の審議はこの程度にとどめ、ご意見等につきましては、事務局で取りまとめていただくことにしたいと思います。
後藤部会長	続きまして、次第の3について事務局から、説明をお願いします。
企画課主査	(次回開催日の説明)
後藤部会長	ありがとうございました。 それでは次回の部会は、8月20日の午前10時から開催し、審議項目につきましては、「政策1 みんなで支えあう健康のまちづくり」の続きと「政策2 豊かな心と知性を育むまちづくり」を審議議題として進めることとしますので、皆様よろしくをお願いします。 その他に連絡事項はありますか。
企画課長補佐	お手元に配布させていただいております、資料11と資料12について説明させていただきます。 資料11は、第1回総合計画審議会(全体会)の会議録ですが、この取扱いについては、次回の全体会で議題としたいと考えております。なお、市の附属機関の会議録は、基本的に公開となっておりますので、本審議会の記録についても原則公開として取り扱うこととしたいと考えております。 配布資料を基に、内容のまとめ具合、委員各位の発言内容等について、次回全体会までに目を通してくださるようよろしくお願いいたします。
企画課長補佐	資料12は、全体会において尾張旭市と近隣市との間の人口の移動についてのご発言がありましたので、資料として提供させていただくものとなります。
後藤部会長	ありがとうございました。その他、事務局で何かありますか。
企画部長	特にございません。長時間に渡りご審議を頂きましてありがとうございました。次回以降もよろしくお願いいたします。 以上をもちまして、第1回目の第1部会の日程をすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。